

光星 2年ぶり4強

第64回
春季東北
高校野球

第3日

第64回春季東北高校野球大会は3日の10日、石巻市民球場と利府中央公園野球場で準々決勝4試合を行った。本県第3代表の八学光星は同点に追い付かれた直後の九回裏、主砲小池が右越えにサヨナラ適時一塁打を打ち、4-3で東陵(宮城県第2代表)を破った。本県第2代表の聖愛は仙台青英(宮城県第3代表)と対戦し、1-8の八回コールドで敗れた。2年ぶりの4強入りを決めた八学光星は大会4日の11日、石巻市民球場で東日大昌平(福島県第3代表)と準決勝を戦う。

(佐々木大輔、工藤俊介)

きょうの試合(県勢)

(左のチームが一塁側)

◇準決勝
▷石巻市民球場
東日大昌平―八学光星(10・0)

主砲・小池サヨナラ打 東陵(宮城)に競り勝つ

兄から激励 目覚める 小池

▽準々決勝 石巻市民球場
東陵(宮城)
0002000001x3
八学光星
000000001x43
(東) 佐藤瑞 三谷 阿部翔
(八) 横山 福山 瀬川
▽三塁打 佐々木頼 目黒
(東) 二塁打 近藤 小池
(八)

【評】八学光星は初回、犠牲や連打で先攻3点を先制。四回に先発横

澤が2点を失ったもの。二塁の4番小池の、五回以降は二塁手の池が右越えの頭上を大きく、主砲福山が要所を締める。越えの適時一塁打を放ち好投を見せた。同点に追いつかれた九回、2死から3番小池が中前打で出ると、二塁に抑えられた。

「つなぐ役割果たす」
○：八学光星の5番馬場は、初回に左前適時打を放つなど、2安打1打点を果たした。二塁手を入り直していた。



【東陵(宮城)―八学光星】9回裏、八学光星が二塁一塁小池が右越え適時一塁打を打ち、サヨナラ勝ち。石巻市民球場

八学光星は、目覚めた主砲の一振りでサヨナラ勝ちし、準決勝に進出した。同点の九回、2死一塁で4番小池が振り抜いた打球は右翼手の頭を越え、一走を本塁まで迎え入れた。県大会は不振が続いたが、東北大会前に不安をかき消したのはセンバツ優勝経験のある兄の言葉だった。

3位で終わった県大会直後、仲間を前に、仲間監督から力不足だと指摘を受けた。省みると、練習で手を抜くなどおこりがあつたと感じた。

初めて監督から名指しで受けた厳しい言葉に、戸惑った。助言を求めた相手は兄・裕也さんだ。

2012年のセンバツ決勝、光星学院(当時)を破って優勝した大阪桐蔭の4番として活躍した。

「はつさり言ってもらえたのは幸せなこと。4番の責任をしっかりと果たしたい」と、メールで書いた兄の激励に、胸のつかえが取れた。

初戦の明後戦で痛めた左手首をテーピングで固定し、痛んだ東陵戦、最終回、小池の打球は右翼手が見失うほど高く大きく飛び、フェンス手前に落ちた。バットを振るだけで痛いはずだが、「痛みもどこかへ行ってしまった」と晴れ晴れとした表情で語った。

(工藤俊介)

ンスで緊張せず、しっかりと打てたことが収穫」と淡々と語った。

東京都板橋区出身、三子園に近いチームで力を試そうと、八学光星を選んだ。身長が179センチある主砲小池と比べ、馬場は160センチ。小池は自分はずなげ野球をすることが役割と馬場、東陵戦はマルチヒットの一方で犠牲の失敗もあり、(準決勝) 自分の役割を果たしたい」と気合を入り直していた。